

H30年度 学校関係者評価委員会 評価結果

自己点検評価項目	平均	評価(意見)	評価結果とその背景	今後の取り組み
I. 教育目的・目標 教育理念				
教育理念・目的・目標の設定と達成	・教育上の特徴を示しているか。	3.0	・入学時、また行事がある時、理念を踏まえて説明されていると思うが、今後も色々な場面で教育理念を意識づけていくことは重要であると思う。	ホームルームでの教育理念に関するガイダンスは、引き続き取り組んでいく。学生の学修ポートフォリオへの意識は少しずつできるようになってきているが、きちんと活用できていない学生への意識づけが必要である。教員は、チューター面接時に学生にポートフォリオを持参するように働きかけ、教員と共にこれまでの学修と教育理念をすり合わせて確認することを強化していきたい。
	・学生が卒業時点でどのような資質を有すべきかを明示しているか。	3.0	・教育理念が概念図で表記されており、どういう学生を育てたいのかが明確になっている。「協同の精神」を柱にした目標設定になっている。	
	・教育理念・目的・目標の周知が図られているか。	2.8	・学生の協同精神については、学年が上がるだけ、下級者への関わりや指導を含む他者への関心が、深まっていくようになってほしい。自分のことは必死になることができても、他者のことを気に掛ける精神が培われていくことを望む。	
	・学生の学修指針に活かされているか。	3.0		
	・教師の教育活動指針に活かされているか。	3.0		
II. 学生の受け入れ				
学生募集の広報活動	・入学希望者開拓の広報活動等が適切かつ効果的に行われているか。	3.0	<p>・推薦枠と一般と詳しくはわかりませんが、看護に対して意欲的な方々が学んでいけることを望む。</p> <p>・出来るだけ辞退者が少なくなるように入試日時を検討された。また地域枠推薦も活用されている。</p> <p>・出前授業は小学校対象としているが、進路を考え始める中学生も対象としてはどうか検討して頂きたい。</p> <p>・H30年度は40名の学生確保ができた。受験者数の倍増も含め努力されている。</p>	<p>第2次中長期計画の中に、推進課題4「島根県立石見高等看護学院の管理運営」の2)入学定員の確保の中の①看護師国家試験高合格率の維持、②広報活動の展開、③学生募集活動の促進、④更なる魅力アップの検討と推進課題4の6)の地域への貢献①卒業生の県内就業率の向上、②地域貢献策の検討が挙げられている。</p>
入学者選抜の方針・方法	・選抜の方針・方法は教育理念・目的・目標にてらして妥当であるか。	3.0	<p>・出身高校への訪問活動等、効果的な取組であり継続していただきたい。</p> <p>・県内に大学、専門学校が増える中、多くの高校への学校訪問やオープンキャンパスの実施など募集活動の努力がなされている。その結果、定員が確保できているところは評価できる。ただし、今後県内の高校の生徒数の増加は見込めない状況でもあるので、学生募集の厳しい状況は継続することが考えられる。その中で、地元小学生に対する親子スクールの開催など地域貢献に繋がる活動は、看護師の仕事に興味を持ってもらい、将来の進路選択にも繋がる効果もあると感じた。入試については公平および公正に実施されている。</p>	<p>これらの内容については、委員からも意見をj得ている。よって引き続き取り組んでいく。</p>
	・選抜の公平性が図られているか。	2.8	<p>・オープンキャンパスは受験生にとってはとてもイメージできるものとなる大切なチャンスであると思う。様々な学校に行かれていることも考えると、重要な機会となると思うので、意見を参考に努力していただければと思う。</p>	<p>入学者選抜の方針・方法については、入試委員会を設けその規定に基づき選抜し、公平性を担保していると評価を受けた。</p> <p>高校訪問などの結果を分析し取り組みに活かしている点について評価を得ているが、対応いただいた先生方の指摘に対し継続的な取り組みを期待された。</p> <p>なお、入学試験については、2018年度の一般入試から、二段階選抜の中止やセンター入試後の日程等魅力ある入試制度の改革を実施した。定員の確保はできたが、今後に向けて、2019年度推薦入試の定員について、検討を行い変更を行う予定である。</p>

Ⅲ. 学生生活の支援					
学修継続への支援	・奨学金等の経済的支援について周知し、活かされているか。	3.0	・カウンセラーを今後も利用しやすく、生かしていけるといいと思う。 ・今年度、グループでカウンセリングルーム訪問を実施されて、カウンセラーとの面談への敷居を低くする工夫がされている。もっと活用できると良いと思う。 ・ボランティア活動が実施されており、地域に貢献できる人材育成に力を入れていると感じる。	カウンセラーが活かされているかということに関して、昨年に引き続き評価が低かった。カウンセリングの利用が少なく効果的に利用されていないという昨年の結果を受け、今年度は1年生が10グループに分かれ、カウンセラーと対話するという新たな取り組みを行ったが、その取り組みについては、良い評価を受けた。しかし、さらに効果的にカウンセリングが活用されることや、利用者の数だけでなく必要な学生が効果的に活用できているかという質での評価が必要であると評価された委員の方もおられた。 今年度はチューター面接を時間割に組み入れ、確実にいけるようにしたが、支援が必要な学生に対するカウンセラーと連携しての早期対応につながるとして、高く評価された。	カウンセラーをより効果的に活用するために、今年度の新たな取り組み含め現状で継続しながら、さらなる活用の仕方について検討を行う。特にカウンセリング等支援が必要と考えられる学生に対し、より効果的な支援が行えるよう、教員・事務・スクールカウンセラー・学校医など、関わる職員が連携しての学生支援を行う。また、GHQをより効果的に活用できるようカウンセラーと相談しながら方法を検討する。 チューター面接を、今年度のように時間割に組み入れることは継続し、面接そのものがより効果的になるよう、日頃から学生達と信頼関係が築けるよう関わる。
	・カウンセラーの配置等健康相談について周知し、活かされているか。	2.6	・カウンセリングを利用する学生が少なく、H30年度からはグループ制にして工夫されている。 ・1年生の時に、スクールカウンセラーと学生が関わる機会を設けられており、カウンセリングを受けやすい工夫はされている。ただし、全員がカウンセリングを受ける必要はないので、必要な学生がカウンセリングを受けられているのかをみていくことが大切ではないかと考える。利用者の数だけでなく、質での評価も必要ではないか。また、チューター面接が授業時間内に設けられ、全員と面接ができるようにされているので、そこで得られた情報から関りの必要な学生へ早期に対応でき、支援がしやすくなると感じた。		
社会的活動への支援	・社会活動等に学生が積極的に参加できるように周知し支援しているか。	2.8		学生が社会活動等に積極的に参加できるための支援は適切になされ、地域に貢献できる人材育成につながっていると、良い評価をされた委員の方が多かった。しかし、更なる支援が必要と捉えている委員の方もおられた。	社会的活動への参加の意義を学生達に伝えるとともに、学生達がより積極的に参加できるよう今後も支援を継続する。
卒業後の進路選択への支援	・進路情報について周知し、適切な指導が行われているか。	3.0		これら以外は学生生活の支援は適切にされているという評価を受けた。	

Ⅳ. 教育課程

教育課程の編成	・教育目的・目標や社会のニーズ、学問的動向に沿った編成をしているか。	2.8	・通学中だけでなく、卒業後の評価やホームカミングディなどまでサポートされている。このことを何らかの形で病院に返して頂けると、新人教育に活用できる。	「教育目的・目標や社会のニーズ、学問的動向に沿った教育課程の編成」と「教育課程の定期的な見直し」については「2.8」の評価であった。自己点検・自己評価を通し改善に努め、臨床実践能力の積み上げ教育も重点的に行っていると評価を受けた。また、卒業後のアンケート評価やホームカミングディが病院での新人教育に活用できるよう何らかの形で病院へ返して欲しいという要望があった。	2022年度のカリキュラム改正に向け、現行のカリキュラムを評価する。また、地域のニーズを意識した上で、社会の要請に応える新たな視点を取り入れたカリキュラムの構築が必要である。 自己点検・自己評価、看護実践能力到達度アンケートなどを通し、教育課程の改善を図ることができている。学院への要望で「アンケートの記入がしにくい」ことがあがり、次年度へ向け、アンケート内容を見直しているところである。今後は、アンケートの結果やホームカミングディの様子などを、病院へ伝えていけるよう検討が必要である。
教育課程の見直し	・定期的に評価し、改善しているか。	2.8	・教員、学生の意見をいかしながら自己点検、自己評価が行われており、改善に努められている。臨床実践能力育成の積み上げ教育も重点的に行われており、卒業教育に継続できる内容だと感じた。		

V. 教育活動・教育指導					
学 科	学習支援(ガイダンス)	・学生が学修しやすいような内容・方法で、ガイダンスを行っているか。	3.0	・実習の目的・内容に合わせたオリエンテーションを今後も続けて頂きたい。また、実習前の準備としての演習も含めてお願いしたい。	<p>学修ガイダンスについては、学生の認知度も低く、説明されたことも忘れていたことが多かったため、かねてより懸案事項であった。しかし、協同学習の手法技法を用いて、学生参加型のガイダンスにするなどの工夫により、学生の評価も向上したことが、委員からも評価された。</p> <p>シラバスについては毎年を見直しを行い、学生にも活用を促しているが、学習の動機づけになっていないと評価する学生の割合がやや高い点を委員より指摘された。確かにシラバスの必要性を認識せずに、卒業早々に廃棄したのちに大学編入等で当学院での既修単位の内容を証明するにあたってシラバスが必要になって困惑するケースもでてきている。在学中から学生に対してシラバスの活用方法ならびに、活用しやすいシラバスの作成について検討をする必要がある。</p> <p>実習オリエンテーションや実習前演習の工夫については、委員より現在実施しているように年々工夫を重ね変革していくことを期待された。また、ミーティングの持ち方をはじめ実習指導について、臨床サイドと密に連携しながら、実習が充実したものとなるようにとの意見も頂いた。当学院の場合、月1回は教員と臨床指導者との会議の場を設け、全体の意見統一を図ったうえで、各実習病棟での個々の連携がとれていると考える。</p> <p>教員の時間的余裕については、昨年も委員からのご意見を頂いたが多忙な状況には変化がなく、さらに今年もご意見を頂くこととなった。限られた人員体制の中で、研修や産育休の教員をカバーする上で、担当する実習や科目が入れ替わる頻度が高くなった面もある。じっくりと準備や工夫に時間を使えるように環境を整える必要がある。</p>
	授業の計画的遂行・調整	・学生が学修しやすいように授業の進捗を計画調整しているか。	3.0	・効果的な実習となるようにミーティングの持ち方も検討した。	
	シラバスの作成状況	・学習への動機づけになるようなシラバスを作成しているか。	2.6	・実習方法や記録・レポートなどにおいては、教員と指導者が連携を密にしていく必要がある。	
	授業科目の担当・時間数	・教員の専門性が発揮出来るように担当科目と時間数を配分しているか。	3.0	・教員は忙しそうであり、時間を作るのに苦労されているのではと察する。	
	教育・学習指導方法の工夫	・教員が授業準備の時間をとれる体制を整えているか。 ・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	2.6 3.0	・学生の学校評価結果によると、「あまりそう思わない」「そう思わない」学生の割合がやや高い。活用しやすいシラバスの作成に努められたい。	
	授業評価	・教員は授業評価を行い、指導方法を改善しているか。	2.8	・学年の違う学生同士の学びあい等の効果的な工夫がされている。	
実 習	学習支援(オリエンテーション)	・学生が実習しやすいような内容・方法でオリエンテーションを行っているか。	2.8	・学習ガイダンスを意図的に行ったことで、学生の評価も良くなっており、3年間の継続した学習に繋がっていると感じた。教員が教育に主体的に取り組んでいる様子がわかり、講義、演習、実習や特別活動において、「協同学習」を軸に置いた成果もみられている。その反面、教員個々の抱える仕事量が増えしてしまうことも考えられ、「授業準備の時間がとれる体制」への教員の評価が低くなっているのではないかと。教員が時間のゆとりを持てることも、教育の質の向上につながると思うので、業務を少しスリムにすることの検討も必要だと思ふ。学生が「協同学習」の一環として学校行事、自治会活動などに取り組んでおり、主体性を育むことに繋がっていると感じた。また、活動を通して学年相互の交流を育むことにもなり、学校としての一体感が出ると感じた。	<p>来年度も人員的に限られた状況は変化しないが、担当科目の変更等は早めに周知し、教員間で情報交換を行いながら、事前準備に要する時間が確保できるように配慮する。業務のスリム化についても検討していく。</p>
	臨地実習の計画的遂行・調整	・学生が実習しやすいように実習を計画・調整しているか。	3.0	・実習ガイダンスを意図的に行ったことで、学生の評価も良くなっており、3年間の継続した学習に繋がっていると感じた。教員が教育に主体的に取り組んでいる様子がわかり、講義、演習、実習や特別活動において、「協同学習」を軸に置いた成果もみられている。その反面、教員個々の抱える仕事量が増えってしまうことも考えられ、「授業準備の時間がとれる体制」への教員の評価が低くなっているのではないかと。教員が時間のゆとりを持てることも、教育の質の向上につながると思うので、業務を少しスリムにすることの検討も必要だと思ふ。学生が「協同学習」の一環として学校行事、自治会活動などに取り組んでおり、主体性を育むことに繋がっていると感じた。また、活動を通して学年相互の交流を育むことにもなり、学校としての一体感が出ると感じた。	
	実習指導要項の作成	・実習への動機づけになるような指導要項を作成しているか。	3.0	・実習への動機づけになるような指導要項を作成しているか。	
	臨地実習の担当・時間数	・教員の専門性が発揮出来るように担当場所、時間数を配分しているか。	3.0	・教員が実習指導準備の時間が取れる体制を整えているか。	
	実習指導方法の工夫	・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	2.6 3.0	・教員が実習指導準備の時間が取れる体制を整えているか。 ・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	
	実習評価	・教員は実習評価を行い、指導方法を改善しているか。	3.0	・教員は実習評価を行い、指導方法を改善しているか。	
特別活動	学校行事	・学生や教員が参加しやすい日程、時期を計画し指導しているか。	3.0	・個々の学生の理解度に沿っての対応は時間と労力を要すると思うが、特性があるのであれば本当に時間をかけて関わらる中で、何か工夫ができればよいのだろうが、実際効果が見られた具体策があれば教えていただければと思う。	
	自治会活動、H・R活動	・学生や教員が参加しやすい日程を計画し指導しているか。	3.0		
成績評価	成績評価の方針と基準	・学生に成績評価の方針と基準を公表し、周知しているか。	3.0		
単位認定	単位認定の方針と基準	・学生に単位認定の方針と基準を公表し、周知しているか。	3.0		
VI. 学校環境					
施設設備	校舎の設備と管理	・定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0	・外壁修理もされた。 ・シミュレーターや実習室、在宅の演習室、PC室等環境は整っていると感じた。後は学生がどれだけ活用していくかであり、活用できるように働きかけていく必要がある。	<p>施設の整備に関しては、日々の清掃業者や学生による清掃・整理整頓、計画的な修繕・改修によって、適切な環境が整えられている。しかし、委員より学内見学において、空気環境の改善についての意見があった。</p> <p>施設内容については、各演習室の整備が充実していると高い評価を得た。授業のみならず、学生の委員会活動において、演習室の積極的な利活用を進めているところである。</p>
	学生寮の設備と管理	・定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0	・教室のCO2濃度等の環境対策に努められたい。	
	美化対策	・校舎及び庭等の美化対策に努めているか。	2.8	・校舎全体の掃除がゆきとどいており、美化対策は十分に行われている。実習室も整理整頓されており、学習しやすい環境が整えられている。各種シミュレーターも揃っており、学生が使用しやすくなっているため、看護技術の習得に活かされていると感じた。	
実習施設	実習用品の整備	・実習用品を定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0		
	学生控室等の整備	・備品等を定期的に点検し、適正な整備を行なっているか。	3.0		

VII. 組織・管理・運営				
組織体制の整備	・組織体制と意思決定システムを明確に規定しているか。	3.0	<p>・危機管理(事故やバウハラ等)マニュアルが整備された。</p> <p>・危機管理マニュアルの整備が進んでおり、学校全体としての取り組みができています。実習指導教員の配置は、専任教員の負担軽減にもつながっているため評価できる。島根県と益田市医師会との連携がうまく取れ、人員確保ができていますので、今後も継続できると良いと思う。国家試験の合格率が100%であることは、国家試験対策の成果が出たためと考えられるので、今後も継続してもらいたい。「ホームカミングディ」については、卒業生と学院が繋がるいい機会になっていると思うので、継続してもらいたい。</p> <p>・書籍などは充実しており、予算もかなりとられているようで、満足度も高いと思う。希望とともに利用度(閲覧頻度)なども調査して、本当に必要なものの選定もはかれるとよいかと感じた。</p>	
教員人事の適正配置	・教職員の任用の考え方を明示しているか。	3.0		
職員の業務分掌	・職員の業務分掌を明示し、周知しているか。	3.0		
講師・実習指導者の確保	・講師・実習指導者の選定の考え方を明示しているか。	3.0		
予算・経理	予算要求	・要求項目を精査し、要求金額を明らかにするなど、合理的な予算要求に努めているか。		3.0
	庶務・経理	・法令・規則等を遵守し、適切な予算執行に努めているか。		3.0
		・迅速な事務処理に努めているか。		3.0
事故の対策と安全管理	・事故の対策と安全管理の考え方を明示し、周知しているか。	3.0		
会議、委員会の運営	・会議・委員会の規定に基づき、運営しているか。	3.0		
学籍の管理	・学籍の管理の方法を規定し、適正に管理しているか。	3.0		
国家試験合格状況	・国家試験合格状況を分析し、整理しているか。	3.0		
卒業生の進路	・卒業生の進路状況を分析し、整理しているか。	3.0		
VIII. 研修・研究				
教職員の研修等活動	・教職員の資質向上のための研修等への積極的参加について支援しているか。	3.0	<p>平均評定は「3.0」であり、教職員の資質向上のために組織として、適切に計画・実施できているという評価を受けた。</p> <p>地域看護研修は平成29年度からの取り組みであるが、次期カリキュラム改正を視野に入れた良い研修内容であると評価いただいた。</p>	
<p>組織・管理・運営に関しては、全項目の評定で「3.0」の評価を得た。</p> <p>危機管理マニュアルについては、平成28年度の「震災編」平成29年度の「ハラスメント編」「臨地実習中の事故編」に続き、平成30年度は「不審者の侵入編」「交通事故編」の策定に取り組んでいることが評価された。</p> <p>教員についても平成28年度に欠員が解消してから継続して益田市医師会と連携し、教員の定数確保に努めている。</p> <p>国家試験合格率100%を平成28年度、平成29年度と2年連続で達成し、学生本人の努力は勿論であるが、教員の地道な国家試験対策の取り組みについても評価を得た。</p> <p>卒業生の早期離職防止のための支援を目的として実施している「ホームカミングディ」の取り組みについて、卒業生の約半数程度の参加ではあるものの、大事な取り組みであり、今後も継続していくことを期待する意見をいただいた。</p> <p>年々、予算確保が厳しくなる中で、毎年一定の図書購入予算を確保し、看護師養成教育の質を維持していることに評価を得た。</p>				
<p>各項目とも高い評価を得ており、今後も継続的な取り組みと、評価委員の意見を参考に必要に応じた取り組みの見直し、充実を図り、適正な管理運営を行っていく。</p> <p>危機管理マニュアルについては、平成31年度以降も緊急性のある項目について順次策定に取り組んでいく。</p> <p>教員の確保については、引き続き益田市医師会と連携を密にし、必要に応じて設置者である島根県の支援を受けながら、定数の確保、教員の育成に取り組んでいく。</p> <p>国家試験対策については、高合格率を維持していくため、学生に学習習慣を身につけさせるため地道な指導を継続していくことや、模擬試験など具体的な国家試験対策も入学時から計画的に取り組んでいく。</p> <p>評価のあった、「ホームカミングディ」や「図書の充実」を含めた教育事業について、今後も継続して取り組んでいけるよう予算確保に努めていく。</p>				
<p>地域包括ケアの拡充が叫ばれている現在、次回のカリキュラム改正では、確実にそこがキーポイントとなる。教員が地域で研修を行う必要性、重要性は高いといえる。今後も、他施設・地域の協力を得ながら実施していく。</p> <p>また、教員が自己研鑽に励むことができるよう、個人が希望する研修会への参加についてもこれまで通り支援していく。</p>				

IX. 社会との連携					
地域社会との連携と交流	・地域住民や施設との連携や交流について積極的に支援しているか。	3.0	<p>・積極的に地域と関わる行事を実施されている。今後も引き続き実施して頂きたい。</p> <p>・地域での行事に積極的に参加しており、地域に根ざした学校という印象をもった。また、メディアと提携することで、地域の方に学校の活動を知ってもらうこともでき、広報活動にも繋がっている。</p> <p>・地域でのイベントなど、様々なことに参加をされており、地域も学院生に期待していると感じている</p>	<p>平均評定は「3.0」であり、学生たちは地域での行事等のボランティア活動に積極的な参加をしていることや、メディアと連携して活動をしていることに対して高い評価を受けた。今後も継続した取り組みに期待されている。</p>	<p>現行の学院の中長期計画並びに第2次 中長期計画に向けての推進課題4「島根 県立石見高等看護学院の管理運営」の 6)②地域貢献の検討と併せ、助言を加味 しながら引き続き取り組んでいく。</p> <p>実習施設との連携・交流についても引き 続き取り組んでいく。</p>
実習施設との連携と交流	・積極的に実習施設との連携や交流を行っているか。	3.0			
X. 学校評価					
自己点検・自己評価体制	・自己点検・自己評価体制について規定しているか。	3.0	<p>・日頃の教育活動を丁寧に振り返り、自己点検・自己評価されている。</p>	<p>平均評定は「3.0」であり、自己点検・自己評価、学校関係者評価を実施し、改善に向けて取り組んでいることに高い評価を受けた。</p>	<p>自己点検・自己評価、学校関係者評価の実施に引き続き取り組んでいく。自己点検・自己評価の結果及び学校関係者委員の意見を反映し、特色ある学院づくりにつなげ、充実した学校運営を行っていく。</p>
	・自己点検・自己評価し改善しているか。	3.0			